

講義名	生活文化論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	西牟田 真希		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / 2018年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2018年度 経済学部 経済情報学科 / 2018年度 経済学部 経済学科 / 2018年度 商学部 マーケティング学科 / 2018年度 商学部 経営学科 / 2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	51041

主題と概要

本講義では、近代国民国家の存在に揺らぎが見られる現代グローバル化社会において、生活するさまざまな人々の文化のあり方を学ぶ。代表的な文化を理解する視点と、その視点が変化して、まだ焦点があてられていなかった文化が注目される現象や事例から、生活文化の多様な認識を解読することを目指す。
 具体的には、まず「文化」に関するこれまでの研究蓄積を紹介し、文化を通して社会や人びとの生活を理解するための基本的な立場や考え方を学んでいく。その上で、労働者や生活者の文化がどのように形成・保持されたかを見る。さらに、これまでの視点と自らの文化とのギャップ、他の社会や生活者への影響を比較して考察する。

到達目標

社会学における「文化」の概念について理解し、国家の枠を越えてグローバルな動きを見せる現代社会の文化の展開について、考察することができるようになる。世界遺産と観光をめぐる文化の事例を通して、特に身近な社会における労働者の生活文化に対して、学問的アプローチができるようになる。

提出課題

各単元の終盤には授業内容をまとめる、自分ならどのような立場を支持するか等、論述課題を設ける。

評価の基準

授業の取り組み姿勢・授業内容に関する論述課題（30%）、平常試験（70%）により総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

文化に関する身近な社会問題に常に関心を持っておくこと。授業は講義形式にて行うが、授業内容に関連した体験や意見・考察も課題などで積極的に求める。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

各単元でプリントを配布する。
 参考文献は、授業の進度や必要に応じて、授業内で適宜紹介する。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文化帝国主義と文化論的転回
3. 「本質」と「関係」
4. グローバル化にみる文化
5. 逸脱・問題と文化
6. 階層と文化
7. 観光と文化 観光のまなざしと少数民族文化
8. 労働/消費と文化 文化の享受と戦略
9. 世界遺産と重要文化財 炭鉱遺産を事例に
10. 文化遺産と日本の表象
11. 記憶と文化 文化の重層性
12. 労働者と文化 労働者と文化活動
13. 文化の機能とアイデンティティ
14. まとめと講評 生活文化はどこにあるのか
15. 平常試験

予習・復習

予習プリントを事前に読んでおくように指示する授業回がある。

備考

授業の進行具合によって、前後のカリキュラムを流動的に変更する場合がある。